

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0866
 住 所 川崎市川崎区水江町6番2号
 氏 名 出光ルプテクノ株式会社
 代表取締役社長 岩武 直人 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	出光ルプテクノ株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区水江町6番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	潤滑油の貯蔵、製造、出荷		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		1,732 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	保全部
		所在地	川崎市川崎区水江町6番2号
		電話番号	044-288-2264
		FAX番号	044-287-6488
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計 画 期 間	平成28年度 ~ 平成30年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

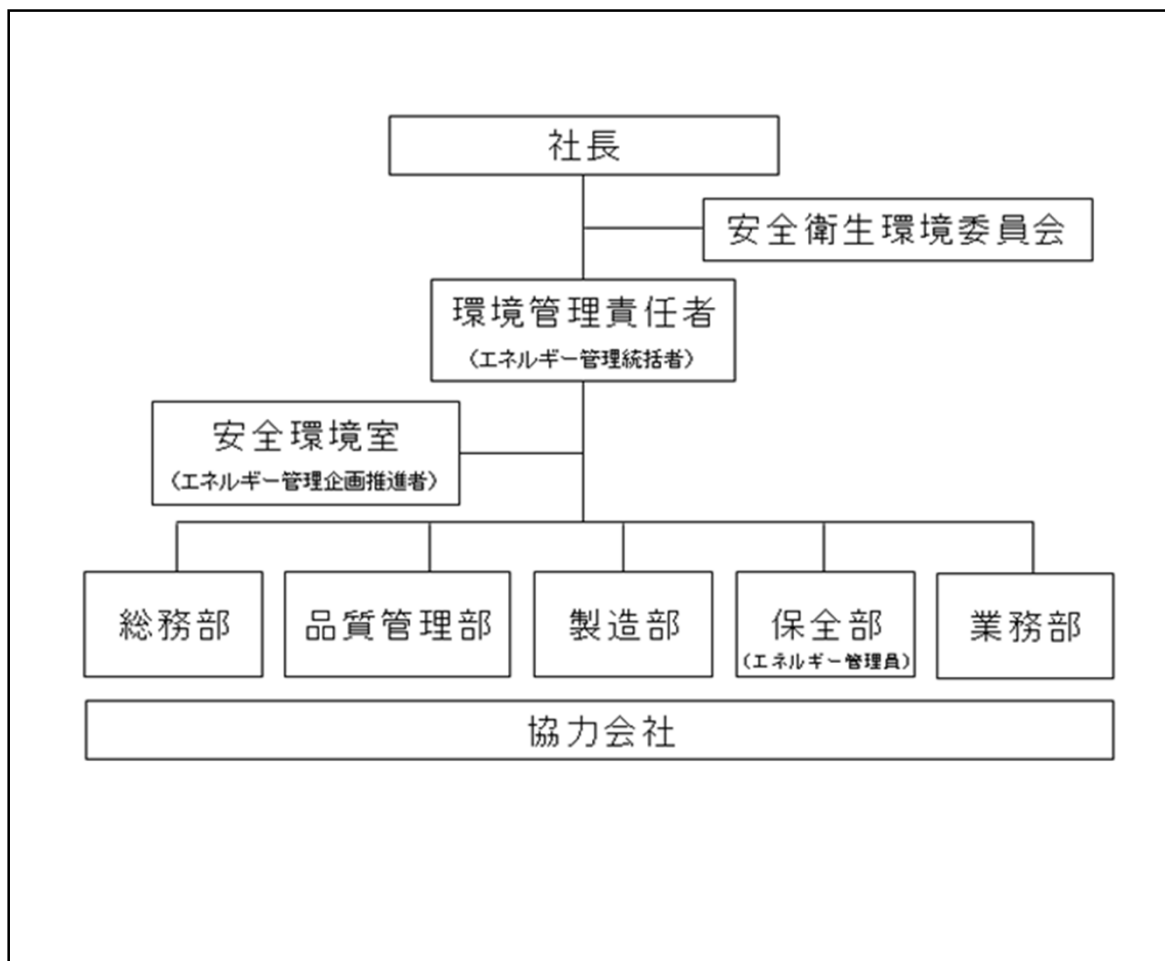
事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

当社は潤滑油原料の基油及び添加剤を受入れ潤滑油製造を行っており、これに係わる設備の設計・建設、生産、購買、入出荷、分析試験サービス等の全ての業務に関し「環境方針」を以下の通り定めます。

1. 『環境にやさしい事業所』を目指し、全ての業務に係わる環境管理システムの継続的改善に努めます。
2. 環境関連法規の順守はもとより、自主的取り組みにより環境汚染の予防及び環境保全に努めます。
3. 投入エネルギー効率を最適とするように、省エネルギーに努めます。
4. 廃棄物の削減及び資源の有効利用に努め、ゼロエミッションの事業所を目指します。
5. 環境管理活動推進のため、環境目的・目標を設定して、その達成に努めます。更に、環境管理システムとともにこれを定期的に見直して、環境パフォーマンスの継続的な向上を図ります。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成 27 年度	目標年度	平成 30 年度
基準排出量	(実) 3,516 (調) 4,749 t-CO ₂	目標排出量	(実) 3,672 t-CO ₂
削減率	(実) -4.4 %	削減量	(実) -156 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	製造数量	単 位	t-CO ₂ /千kL
基準年度の値	23.37	目標年度の値	22.67
削減率	3.0 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

温室効果ガスの排出量原単位の削減を図るため、エネルギー原単位の値を年平均1%削減することを前提に目標を設定した。
 基準年度の平成27年度は製品需要の伸び悩みや設備改修による生産減により、製造数量が減少した。
 平成28年以降の製造計画では製造数量増加を見込んでおり、製造に要するエネルギーの増加は免れない状況である。
 このため使用エネルギーの状況を見直しより効率的でムダのない管理を徹底することにより原単位の低減を図って行きたい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第1号、第2号、第4号該当者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外部機関の利用 外部専門家によるスチーム系統の効率診断を実施する。改善が見込める場合は計画を検討する。 ○熱利用設備に係る断熱の保全管理 配管保温やタンク保温の状態を定期的に点検する。 また老朽化したタンク保温の取り替えを実施する。 ○スチームトラップの保全管理 スチームトラップの状態の点検を外部に委託し、不良箇所があれば補修・更新等を実施する。 ○エアコン更新（新設、更新等における措置） 空調機更新の際には効率の高い機種を選定する。 ○ロスナイ導入（新設、更新等における措置） 事務所等の換気時の熱効率を向上させるため、ロスナイ等の導入を進める。 ○コンプレッサーの保全管理 エアコンプレッサーの定期的な整備を実施。 使用先のエア系統の漏れの補修を実施する。 ○配管電気加熱設備の運用管理（電動力応用設備の無負荷管理） 配管電気加熱設備の利用状況に応じたONOFF制御を見直し電力低減を図る。 ○照明器具の運用管理（新設、更新等における措置） 老朽化した照明設備更新時には高効率型照明またはLED型照明の導入を検討、実施する。
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第3号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

出光興産(株)が環境事業の一環としてグリーン電力供給事業（出光グリーンパワー）を展開している。当事業所でも買電先を出光グリーンパワーとし、風力・水力・バイオマスなど自然エネルギーを活用した電力を使用している。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

- 保温タンクの保温材更新
タンクの保温材更新を計画的に実施した。(平成25～27年度)
一部ではあるが、タンクの保温材更新の際に断熱能力の高い素材を採用した。(平成25年度)
- スチームトラップの効率化
構内のスチームトラップの状態を外部に診断を委託。故障箇所や他のタイプの推奨の情報を得て交換を実施した。(平成25年度)
- 屋外照明のLED化
屋外照明の更新及び新設時にLED型照明器具を導入した。(平成25～27年度)
- 不要設備の切り離し撤去
充填ラインの一部で遊休設備の撤去を実施、これまで供給していた電力、エアが不要となり効率化を図った。
- エアコンプレッサーの効率運用
常時 2 台運転をしていたエアコンプレッサーを休日時や主要な製造工程完了後に 1 台運転となるように運用の変更を行った。平成26, 27年度)

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

○廃棄物の削減の一環として排出物のリサイクル化を推進する。

○資源の有効利用として用紙の消費量を削減する。

○社内の業務改善活動の一環で各部門から選出されたメンバーで構成された省エネルギー対策チームを立ち上げ、新たな省エネ活動を展開していく。

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	3,516	t-CO ₂
(調)	4,749	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
出光興産株式会社 京浜ルプセンター	川崎市川崎区水江町6番2号	1721	潤滑油製造業	3,516 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--